



わかたけ

春日部市立武里小学校
児童数 504名
令和6年10月30日発行

考えることの楽しさを

校長 加納 敏幸

算数は、「考えること」を学ぶ教科である。子供たちには、「考えること」の楽しさを味わわせてほしい。

本校の校内研修では、算数科を中心とした授業改善に取り組んでいます。冒頭は、先日実施した校内授業研究会で、私たちが指導者の先生から指導された言葉のひとつです。

「算数の学習は、大事なことは答えを出すことでは？」と、思いうかべるかもしれません。もちろん答えを出すことは大切です。しかし、それ以上に重要なことは、算数では自分であれやこれやと悩みながら考える解決していく楽しさがあるということです。

三角形の面積の学習を例にすると、いわゆる公式では「底辺×高さ÷2」です。面積を求める公式を使うと、誰もが答えを出すことが容易にできます。では、なぜ、そのような解き方になるのでしょうか。違う言い方をすると、なぜ÷2をするのか。「それは教科書に書いてあるから」「公式だから」では、算数を通して子供たちに培いたい教科の特性に触れることはできません。面積の学習は4年生の学習内容です。図形の広さである面積の定義をもとに、子供たちは長方形や正方形の面積を学習し、三角形の面積に進みます。三角形の面積の学習では、それまでに学習した図形の面積をもとに子供たちは考えます。

本校の算数の学習で重視していることは、「今日はこの問題です」や「今日の課題は〇〇です」と、教師が子供たちに示すのではなく、本時で身に付けさせたい状況や場面を工夫して示しながら、「今日はどんなことができる」や「どんなことを考えたい」などのように、子供たちが自ら本時の“問い”をつくり、学習していく授業改善です。

進化続けるAIの発達により、これからの時代、単純に答えを出す役割はAIが担っていくことでしょう。だから、知識・理解ベースの学習はしなくてもよいではありません。自分で考え、友達に伝え話し合うような子供の学び方を養っていくことは、知識・理解を土台とした確かな学力の獲得につながります。指導者の先生いわく、『これからの時代では、言われたことを言われたとおりにきちんとできる「よい子」だけでは、生きてはいけません。「お手本のない」時代を生きる力を育むことが、学校教育には求められています。』、私たち教員の心に響きました。

今の子供たちに求められている教育や学び方については、ぜひ、大人である保護者・地域の皆様とも共有していただきたいと思います。大人である私たちが受けてきた教育と、これから生きる令和の時代の子供たちの教育は、同じ問題の解き方を例にしても異なります。与えられた問題を考えることに留まらず、何を考えるべきかを自ら見出すことを促すことは、主体的で深い学びにつながります。本校では、自分で考え、自分で判断し、自分で行動できる子供たちを、算数の学習に加え、すべての教科・領域の学習の中で育てていきたいと思っております。

わかたけスポーツフェスティバルが行われました

10月6日(日)、「わかたけスポーツフェスティバル」が行われました。今年は、全学年で徒競走、団体種目、表現を行いました。保護者の皆様、応援ありがとうございました。また、アンケート調査へのご協力ありがとうございました。今後に生かしてまいります。



シエナ・ウインド・オーケストラ

10月18日(金)に舞台芸術等総合支援事業の学校巡回公演として「シエナ・ウインド・オーケストラ」による音楽鑑賞会が行われました。当日は、48人の大オーケストラの演奏でした。「キャンディード序曲」「組曲『動物の謝肉祭による《不思議な動物園》』より」「交響詩『死の舞踏』」「オリエント急行」…アンコール曲を入れて、9曲演奏していただきました。ホールで聴くような本格的な演奏で、大迫力でした。最後に、金管バンドクラブの児童とのセッションを行い会場は大いに盛り上がりしました。

芸術の秋、音楽は心の栄養です。音楽とたくさん触れ合えるといいですね。



たくさんの学びがありました！

3年生社会科学習

10月17日(木)は、昔の暮らしと市場のしくみについて、「埼玉県歴史と民俗の博物館」では、昔の人々の暮らしや道具について学びました。「春日部市場」では、流通について学びました。食品が自分のところに届く大事な場所だという認識を持ちました。

5年生社会科学習

10月24日(木)に、「武州中島紺屋」と「春日部みどりのパーク」に行きました。伝統産業の藍染と、未来の農業について学びました。陸上養殖、ドローンを使った最先端の農業などの研究について学びました。

